香曽我部義則先生の今月のカルテ27

慢性痛とペインクリニック

肩こりや眼精疲労のせいか、頭痛がする―。誰もが経験したことのあるこの症状。実は、頭痛はペインクリニックでも治療が行われています。梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曽我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるこのコラム。第27回のカルテは、片頭痛についてです。

大作家も苦しめられた片頭痛
今では特効薬トリプタン製剤が発作を鎮痛

「僕の視野のうちに妙なものを見つけ出した。妙なものを？　と云（い）うのは絶えずまわっている半透明の歯車だった。僕はこう云う経験を前にも何度か持ち合わせていた。歯車は次第に数を殖（ふ）やし、半ば僕の視野を塞（ふさ）いでしまう、が、それも長いこと　せる代りに今度は頭痛を感じはじめる…」。これは芥川龍之介の遺稿「歯車」の一節です。かの大作家も片頭痛に苦しんでいたのです。

片頭痛は頭痛発作を繰り返す疾患で我が国では人口の約8・4％が罹患（りかん）しています。頭痛の発作は4～72時間続き、大抵片側性で、こめかみがズキンズキンする拍動性の頭痛です。

多くは30歳までに発症し、20～50歳代の女性に多くみられます。また親子で遺伝すると考えられ、月経と関係があるとも考えられています。頭痛の誘因となる食物は、赤ワイン、チーズ、サラミソーセージ、コーヒー、チョコレートなどがよく知られています。

片頭痛発作は①前駆症状期②前兆期③頭痛期④消退期―の4段階に分けられ、前駆症状は数時間から数日前に抑うつや多幸、過敏、不安、肩こり、疲労といった変化がみられます。

前兆は片頭痛患者の20～30％に見られ、冒頭の小説のような光のきらめき、ジグザグ線のようなものが視野に入る、視力低下（暗点）、ヒリヒリする、しびれ感などの感覚症状も生じます。

頭痛期は主に片側（時に両側）にズキンズキンとした痛みがあり頭を動かすと悪化します。さらに悪心や嘔吐（おうと）などの症状が必ず伴うのが特徴。また光や音、においに過敏に反応することもあります。

治療は軽症例ではアスピリンなどの一般的な痛み止めが有効ですが、中等度以上ではトリプタン製剤を使用します。経口薬、注射薬、点鼻薬があり、片頭痛の原因である血管の拡張と炎症を鎮める特効薬として使用されています。

予防薬としては抗うつ薬、特にアミトリプチリン（トリプタノール）が有効とされ、星状神経節ブロックが試みられることもあります。

頭痛の診断は概して難しく、また器質的疾患との鑑別が大切ですので、まずは神経内科の先生に相談すると良いでしょう。

梶木病院（西花尻）
☎（293）3355（代）
※このコラムは毎月第4週目に掲載しています

原因の分からないつらい片頭痛。あなたも経験がありませんか

■プロフィル　こうそかべ・よしのり
昭和54年3月岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長を経て平成16年4月1日から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属